

校務改善の推進

職務の効率化と組織の活性化



あきる野市立草花小学校
校長 田中淳志

働き方改革をするなかで…
児童の教育活動の充実を目指す！

【校務改善の目的】

- 重点取組の推進・達成のために…
⇒ 経営支援部を要とした組織の確立
- 効率的な職務を推進するために…
⇒ 運営組織改変による校務の推進
(3グループ部会制運営組織への改編)
⇒ 必要な職務・環境等の見直し・取組

草花小の概要

スクールモットー：ワンチーム草花「実践躬行」
* ワンチーム…学校内だけでない地域・保護者・関係機関との連携・協働

- 1 児童数 651名 (R4.1.11現在)
- 2 学級数 通常 19学級
特支(知的) 4学級
- 3 教員数 33名(管理職を含む)
〔幹2 任7 諭21 臨1〕
* 任は、再任用1を含む
- 4 経験年数 7年以下が54%
- 5 年齢構成 30歳未満が38%

〔R元年度～R3年度 教育活動の重点〕

「地域創生 & グローバル“るのっ子”の育成」

この達成を目指して…(基本方針)

学び舎・道場の
学校づくり

◎確かな学力の定着と向上
(特に「思考・判断・表現」)

楽園・オアシスの
学校づくり

○豊かな心の醸成
○健やかな体の育成
○特別支援教育の推進

文化の香かおる
学校づくり

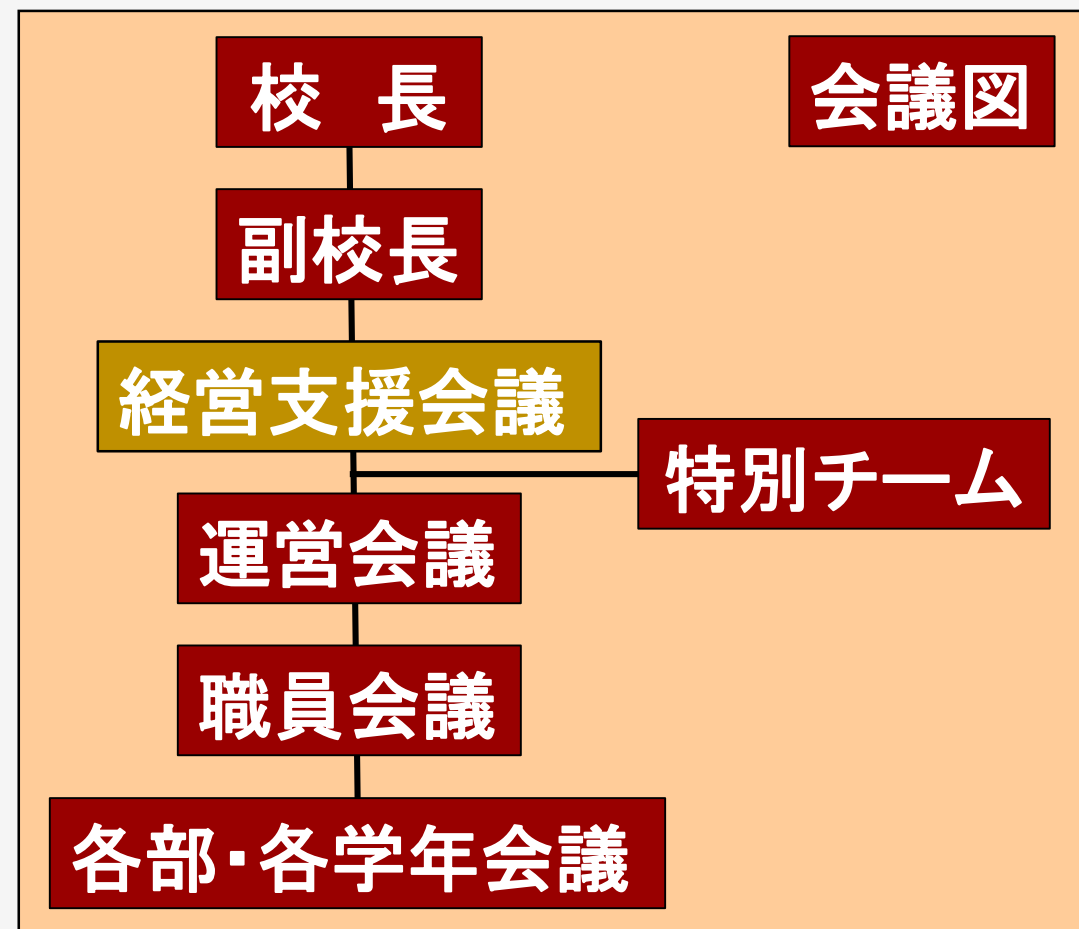
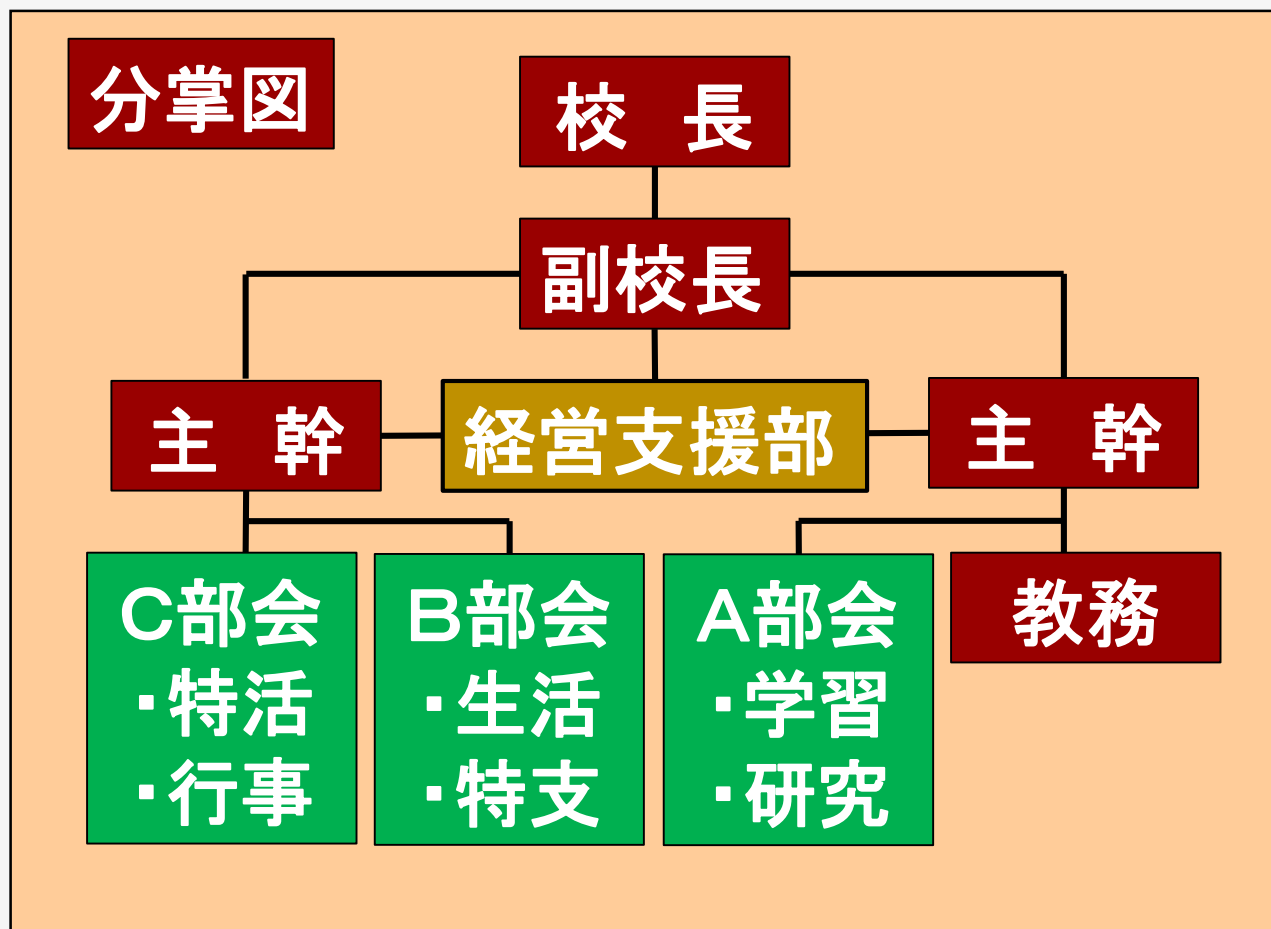
最重点

◎未来に向かう力の育成
(草花“るの育”の推進)

…を推進する。

改変した運営組織の分掌図・会議図

— 組織とその位置付けの明確化 —



経営支援部を要とした組織の確立① ← 位置・役割・活動が不明確

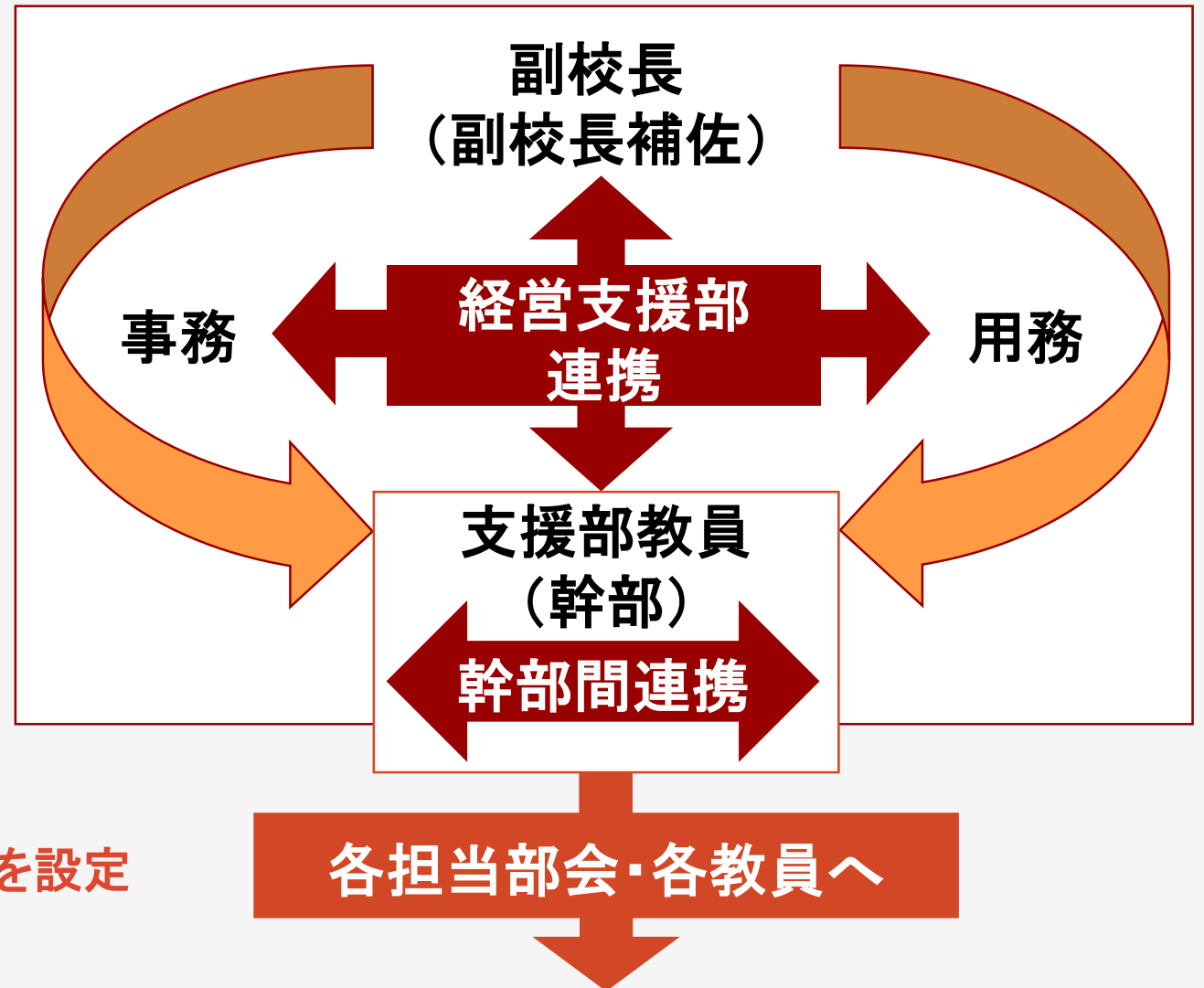
◇部員構成

校長・副校長・主幹(2名)
主任(2名)・都事務・用務員
副校長補佐

◇会議開催

- ①全体会(年3~6回)
⇒全部員対象
- ②部分会(週1回)
⇒校長・副校長・主幹(2名)
内容に応じて関係部員を加える

※②部分会は固定時間割に同一空き時間を設定
(⇒会議時間の確保)



経営支援部を要とした組織の確立② ← 位置・役割・活動が不明確

◇重点とする職務内容の明確化→意識化

副校長監督



職種・職層・適所配置

1

「草花“るの育”」
の企画・推進

担当：主幹A・主任A



- 特別チーム発足・管理
 - 内容の検討・決定
 - 単元学習過程作成
 - “地域の先生”発掘
- 教員への浸透・定着
 - 学年組織への発信
 - 校内研究とのリンク
- 保護者・地域への発信
 - 協働活動との連携

2

学校と地域等と
の協働・連携

担当：主幹B・副補佐



- 地域学校協働活動（事業推進者主体へ）
 - るの育支援体制確立
 - ・るのカルタ企画実施
 - ・地域資料収集作成
- 学習支援体制確立
 - ・授業等学習支援員
 - ・漢検／英単検 等
- 学童・青少健等連携

3

校内施設・設備
の環境整備

担当：主任B・用務



- 教室等整備・改造
 - 教育相談室
 - PTA・地域室
 - 小会議室・校長室
 - 職員室一体化（通常と特支：同室に）
 - 理科室・音楽室
 - 廊下掲示板設置
 - 教材室（大清掃）

4

学校徴収金
導入・管理等

担当：事務・副補佐



- システム導入・管理（R2準備・R3導入）
 - 金融機関対応
 - 保護者説明・対応
 - 教員説明・連絡
 - 登録・集金・支払い
 - 状況把握・対応
 - データ管理 等
- 他 学校予算計画 等

経営支援部を要とした組織の確立③ ← 位置・役割・活動が不明確

◇特別チームの設置と活用(プロジェクトチーム) *** 経営支援部下に設置**

例

※必要最少人数で効率的に方向を決定し、これを基に、関係分掌部会等で職務を推進する。

1 「草花“るの育”」推進

経営支援部 2名・学習指導部 3名

【R 1～3年学校経営方針重点施策】

- * 全学年の年間指導計画作成・“るの育型”学習過程作成
- * 地域の専門家「まちの先生」発掘・協力依頼

2 学校支援地域本部事業

経営支援部 2名・PTA代表者
地域コーディネーター

【R 2年4月開始⇒R 3年度継続・定着・充実へ】

- * 事業内容の検討・決定・共有・実施・振り返り
- * 各事業実施における連携・協働方法の確立

3 校務支援システム導入

経営支援部 1名・ICT担当 2名

【R 3年4月システム導入に向けて・導入後の機能化】

- * システム導入の準備（研修・導入方法等検討）
- * 導入後の課題・トラブル等対応

4 研究発表会 (ICT活用)

経営支援部 1名・研究主任
学習指導部主任・ICT担当 1名

【R 3年2月指定校決定⇒R 3年11月発表会開催】

- * 基となる研究構想の作成・提案・修正・周知
- * 1人1台貸与タブレットの管理・活用方法等の作成・周知
- * 研究発表会当日の開催方法の立案・決定・案内

経営支援部を要とした組織の確立④ ← 位置・役割・活動が不明確

◇改善の成果

→役割分担の明確化 →業務改善 →教員の資質・能力の向上

- 副校長の負担軽減
- 経営参画意識の向上
 - ①幹部教員 ②事務 ③用務
- 連携強化〔目標・課題の共有〕
 - ①副校長と部員 ②幹部教員間
 - ③幹部教員と事務・用務
- 幹部教員の分掌管理・監督力向上
 - ⇒各教員への指示浸透
 - ⇒職務が効率化・迅速化
- 副校長補佐の活用定着
- 効果を考えた予算執行

- 草花“るの育”の推進
 - ⇒経営ビジョン達成
 - ⇒都教委職員表彰(団体の部)受賞
- 学校と地域との協働・連携
 - ⇒教員の事務職務削減・負担軽減
 - ⇒学校地域連携支援事業の定着
- 教室等環境整備(機能する教室へ)
 - ⇒教育活動の安定(相談室等)
 - ⇒整備＝職務効率化＝時間短縮
- 事務的業務の改善
 - ⇒教員の事務職務削減・負担軽減

3 グループ部会制運営組織への改変①

← 8部会制



教務	研究	生活	特活	広報	特支	体育	文化
----	----	----	----	----	----	----	----

- * 各教員を2部会に配置(部の構成メンバーは8部会まちまち)
- * 2部会の他に各教員とも各教科部会・教科外部会を担当
- * また、低学年は入学委員会・高学年は卒業委員会を担当



分掌分担の整理
会議設定回数減
会議時間・内容の調整

A部会(学習指導部) 学習指導／研究・研修	B部会(生活指導部) 生活指導／特別支援	C部会(特別活動部) 特別活動／体育・文化
---------------------------------	--------------------------------	---------------------------------

- * 各教員をABCいずれか1部会に配置(役割・責任分担を明確化し職務改善)
- * 教務事務は部会に含めず教務主幹・専科教員・(副校長補佐)で担当
- * 必要最少人数の部内各担当者配置(各主任が担当者を管理・監督)
- * 1人1部会＝指示系統の単純化(各教員の校務指示系統の1ライン化)
- * 儀式は主幹／該当学年の主任[入1・2・特支／卒5・6・特支主任]で担当

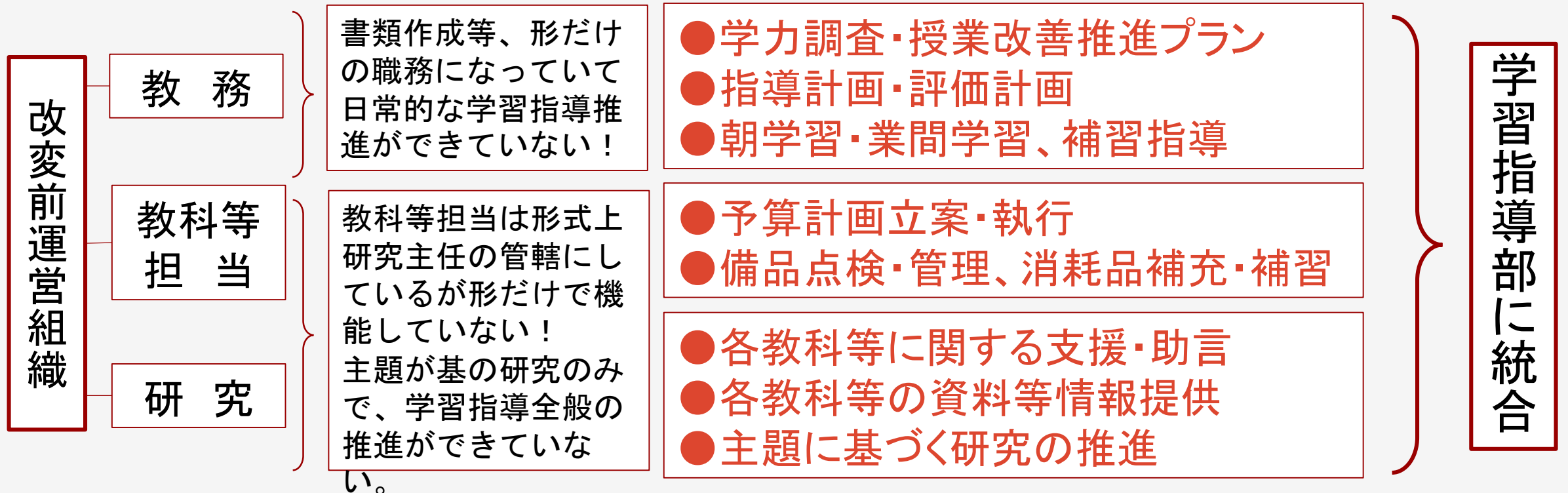
3 グループ部会制運営組織への改変②

← 8部会制

◇学習指導部(A部会)の新設

「学力向上」達成のために…ひとまとめ！

教育活動→大きく「学習指導」と「生活指導」→「学習指導部」を設置(推進体制整備)



☆学習指導関係職務を1部会1ラインに統合→指示系統1本化・職務の効率化・合理化

3 グループ部会制運営組織への改変③

← 8部会制

【各会議の開催】	改変前	改変後
各部会議開催回数	27回	12回
職員会議開催回数	10回	10回
1回の実施時間	約60分	約30分

※8部会2展開制→3グループ1展開制
 ⇒各部会議会数の削減
 ※運営会議・学年組織(主任)の機能化
 ※長期休業中に核となる提案を完結
 ⇒職員会議時間の削減

【分担例】	改変前	改変後
教員A	1生活 2体育	1生活／(特支)
教員B	1生活 2文化	1生活／(特支)
教員C	1生活 2情報	1生活／(特支)
教員D	1生活 2特支	1生活／(特支)
教員E	1研究 2体育	1学習／(研究)
教員F	1研究 2文化	1学習／(研究)
教員G	1研究 2情報	1学習／(研究)
教員H	1研究 2特支	1学習／(研究)

改善の成果

- 組織の単純化＝機能化＝スピード化
- 担当分担数・担当者数の削減
- 複雑な担当者間クロスの消滅 ⇒ 部会開催の容易化・設定回数の削減
- 責任分掌が明確化 ⇒ 役割の自覚 ⇒ 職務意識の向上 ⇒ 教員の育成
- 各教員の指示系統ラインの1ライン化
- 部内情報共有の促進

必要な職務・環境等の見直し・取組

← 課題改善・対応

課題(R1当初) ⇒A 情報共有の不足／共通取組の浸透・徹底／連絡漏れ・間違い等
⇒B 生活指導(いじめ・要配慮等)の組織的取組

1 職員室一体化

固定学級職員室廃止



通常の職員室と統合

机上フラット化

2 夕会の設定

復活

	変更前	変更後
通常連絡会	0 (半数で週2)	週2 (全員)
生活指導会	0	週1
ミニ研究会	0	隔週1

3 空き時間職務

児童等対応の要員

➡ 1名職員室待機

職務内容明記

➡ 校務等・学級事務

- 教員間の連絡不足が解消した。
- 通常・固定学級の連携が強くなった。
- 経営ビジョンが浸透した。
- 職務がスピード化・機能化した。

A

改善
の
成果

- 学校課題が全体共有できた。
- 児童への同一(同対応)指導が進んだ。
- 全校的複数対応指導で児童が安定した。
- 早期共有で課題対応時間が減少した。

B

- 「経営支援部を要とした組織の確立」「運営組織改変による校務の推進」により、効率的な職務が推進し、経営の重点取組も達成できた。
- 一年間指定で、市研究指定校として研究を推進し、11月に研究発表会も開催できた。R3年度月平均残業時数は38時間であった。



平均残業時間

